

開講年度：2026

科目名	臨床実習前集中講義 Learning Clinical Skills	題目（副題）	クリニカルクラークシップに向けて
担当教員、教員連絡先内線	森 淳一郎	5821	
学年、講義期間、曜日・時限	4年	前期(集中)	集中・不定期
単位数、講義室	2 単位	医学科第1 実習室 医学科第2 実習室 旭総合講義室A B	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄ 授業達成目標 M26カリ・医学, M25カリ・医学, M24カリ・医学, M23カリ・医学, M22カリ・医学, M21カリ・医学 ≪基礎的・専門的な知識と技能≫疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技能を修得している。 ⇄ 信州大学医学部が実践する診療参加型臨床実習を有意義に行うために、診療に必要な知識、態度及び技能を学び、修得する。 M26カリ・医学, M25カリ・医学, M24カリ・医学, M23カリ・医学, M22カリ・医学 ≪問題解決力≫患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して適切に判断し必要な行動ができる。 ⇄		
臨床実習前の到達目標	・患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームド Consent などの意義と必要性を説明できる。 ・患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を説明できる。 ・必要最低限の病歴を聴取し、基本的な身体診察を行うことができる。 ・適切な態度で診断治療を行うことができる。 ・問題志向型医療記録形式を用い、最低限の診療録を作成できる。 ・コミュニケーションの方法と技能およびその及ぼす影響を概説できる。 ・良好な人間関係を築くことができる。 ・患者・家族に共感することの重要性について概説できる。 ・医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる。 ・医療現場における報告の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる。 ・医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業のキーワード	臨床実習に向けての学習、プロフェッショナルリズム、基本的な診療技能・臨床手技、リスクマネジメント、院内感染対策、診療録の書き方、処方箋、薬害問題、医療保険制度、病院情報システム、共用試験医学系OSCE対策（医療面接、バイタルサイン、頭頸部診察法、胸部診察法、腹部診察法、神経学的診察法、心肺蘇生法、基本的手技） グループ学習、グループ実習、実務経験のある教員による授業科目		
授業の概要・一般目標	A-1-2) 患者中心の視点 患者及びその家族の秘密を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つことができる。 A-1-3) 医師としての責務と裁量権 豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚し行動できる。 A-3-1) 全人的実践的能力 統合された知識、技能、態度に基づき、患者の立場を尊重しながら、全身を総合的に診療するための基本的能力をできる。 A-4-1) コミュニケーション 患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を発揮できる。 A-4-2) 患者と医師の関係 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握する能力を獲得できる。 A-6-1) 安全性の確保 医療上の事故等や医療関連感染症等は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止して患者の安全性確保を最優先することにより、信頼される医療を提供しなければならないことを説明できる。 A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防 医療上の事故等が発生した場合の対処法を概説できる。 A-6-3) 医療従事者の健康と安全 医療従事者が遭遇する危険性等について、基本的な予防・対処及び改善の方法を実施できる。 F-3-2) 基本的な医療面接を行うことができる。 F-3-3) 基本的な診療録（カルテ）を作成できる。 F-3-4) 基本的な臨床判断を実施できる。 F-3-5) 基本的な身体診察を行うことができる。 F-3-6) 基本的臨床手技を行うことができる。		

テキスト，教材，参考書	「福井次矢、奈良信雄（編）：内科診断学 第3版 医学書院」を教科書とする他、自己学習用動画を用意します。 以下はより理解を深めるうえで役立つ図書（参考図書）です。。 1) 飯島克己 外来でのコミュニケーション技法、日本医事新報社 2) 田口博國(訳) 医療面接法、よりよい医師-患者関係のために、医学書院 3) 飯島克己、佐々木将人(訳)：メディカル インタビュー、メディカル・サイエンス・インターナショナル 4) 田村康二：医学的面接のしかた、医歯薬出版株式会社 5) 福井次夫、奈良信雄：内科診断学 医学書院 6) 倉本秋（編）：身体診察と基本手技 メジカルビュー社 7) 山崎洋次（監修）、井上大輔、岡崎亮、塙篤雄（編）：OSCEトレガイド 医学評論社 8) 福島統（編）：医療面接技法とコミュニケーションのとり方 メジカルビュー社 9) 古谷伸之（編）：診察と手技がみえる Vol.1 メディックメディア社 10) 千田勝一、鈴木一幸、小川彰（編）：基本臨床技能修得マニュアル 医歯薬出版株式会社 11) 酒巻哲夫、阿部好文（編）：診療録の記載の仕方とプレゼンテーションのコツ メジカルビュー社									
履修上の注意	○期間中に予定されているすべての授業および実習への出席を必須とする。無断欠席者には共用試験医学系OSCEの受験資格を与えない。なお、病気等やむを得ない理由にて授業を欠席した際はその内容をレポートで提出し、医学教育研修センター教員に口頭で説明し、諮問に答えること。また、実習を欠席した時はeALPS等で自習した後、医学教育研修センターの教員の前で実際に手技を行ない評価をうけること。 ※OSCE受験料が必要になります。金額・支払い法については、改めて周知します。 ○スキルスラボを3回以上利用することを義務付け、実習の一部としているので注意すること。 詳細については「手引き」にて連絡します。									
授業の形式，視聴覚機器等の活用	全体講義、グループワーク、ロールプレイ、自習時間における個人学習・実技練習などがある。必要に応じて動画を積極的に活用する。									
成績評価の方法	OSCEの点数および概略評価（総合評価）にて評価する。 <table><tr><td>医療面接</td><td>点数：100点満点</td><td>概略評価：評価者の平均</td></tr><tr><td>基本的診療技術</td><td>点数：全ブース合計で100点満点</td><td>概略評価：全ブースの評価者平均</td></tr><tr><td>救急、臨床手技、感染対策</td><td>点数：全ブース合計で100点満点</td><td>概略評価：全ブースの評価者平均</td></tr></table> なお、期間中に予定されているすべての授業および実習への出席を必須とし、無断欠席者には共用試験医学系OSCEの受験資格を与えない。	医療面接	点数：100点満点	概略評価：評価者の平均	基本的診療技術	点数：全ブース合計で100点満点	概略評価：全ブースの評価者平均	救急、臨床手技、感染対策	点数：全ブース合計で100点満点	概略評価：全ブースの評価者平均
医療面接	点数：100点満点	概略評価：評価者の平均								
基本的診療技術	点数：全ブース合計で100点満点	概略評価：全ブースの評価者平均								
救急、臨床手技、感染対策	点数：全ブース合計で100点満点	概略評価：全ブースの評価者平均								
成績評価の基準	点数および概略評価のいずれも合格基準を満たした者を合格とする。 ○点数評価について 3分野合計300点を100%とし、ボーダーライン法により求められる最低%以上のものを合格とする。 ※90－100%：秀 80－89%：優 70－79%：良 合格最低%以上：可 ○概略評価について 3分野の概略評価の平均が2.5以上の者を合格とする。									
事前事後学習の内容	○レジュメをeALPSにアップしておくので予習しておくこと。 ○スキルスラボを開放し、予習、復習に必要な器具を用意するので適宜利用すること。 ○自己学習用の動画をアップロードするので、適宜利用すること。 本授業の単位修得には3時間分の時間外学習が必要です。									
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問，相談への対応）	臨床実習で十分な臨床能力を身につけるための準備教育であるため、自ら進んで学ぶ姿勢が強く求められる。 相談や質問は医学教育研修センターへ。									